

ざいもくちょう

## 材木町跡碑

〔地図番号22〕

## 建立年月日

1957(昭和32)年8月6日

## 建立者

旧材木町生存者有志

## 設計者



## 形状

自然石に「材木町跡」と記されている。

## 建立の目的

他に疎開などして生きて残った旧町民が平和記念公園に変わった旧町を惜しむとともに、犠牲者の冥福を祈って建立したものの。

## 碑文

「材木町跡」

## 特記事項

## 1 材木町

材木町は、幕末から明治・大正・昭和初期にかけて市内有数の繁華街として栄えた中島地区なかじまの一角で、町名のとおり藩政時代には材木問屋が集まり、川沿いでは材木の集散が行われていました。ゆったりとした住宅街には、広島で一、二を争うほど大きかった誓願寺せいがんじをはじめ、歴史の古い寺が建ち並び、妙法寺のかさもり大明神、安楽院の子安観音など市民に親しまれて、のどかな下町情緒を漂わせていました。

## 2 消えた町

材木町は爆心地からわずか500m以内に位置し、一瞬にして壊滅しました。住民(※)はもちろん、隣接する町とともに建物疎開地域に指定されていたため、作業に動員されていた中学生や女学生も多数犠牲となり、無残な姿で死んでいきました。焼け野原と化した町は、戦後、平和記念公園となったため、その姿を消しました。

(※) 当時、材木町に居住していたことが確認できたのは474人で、被爆当日に330人が死亡しました。